

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年7月11日(2013.7.11)

【公表番号】特表2012-529555(P2012-529555A)

【公表日】平成24年11月22日(2012.11.22)

【年通号数】公開・登録公報2012-049

【出願番号】特願2012-514978(P2012-514978)

【国際特許分類】

C 08 G 59/14 (2006.01)

C 09 J 11/04 (2006.01)

C 09 J 7/00 (2006.01)

C 09 J 163/00 (2006.01)

C 08 G 59/40 (2006.01)

【F I】

C 08 G 59/14

C 09 J 11/04

C 09 J 7/00

C 09 J 163/00

C 08 G 59/40

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月22日(2013.5.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) アミン、および

(b) エポキシ樹脂、および

(c) エラストマー-エポキシ付加物

の反応生成物からなることを特徴とするエポキシ樹脂用硬化剤。

【請求項2】

(a) アミン、および

(b) エポキシ樹脂、および

(c) カルボキシル基終端されたブタジエン-アクリロニトリル(CTBN)-エポキシ付加物

の反応生成物からなることを特徴とする請求項1に記載の硬化剤。

【請求項3】

前記CTBNのニトリル含有量が約12~35重量%であることを特徴とする請求項2に記載の硬化剤。

【請求項4】

前記硬化剤が分散剤のコア相として形成され、前記粒子がポリマーシェル中にカプセル化されていることを特徴とする請求項2に記載の硬化剤。

【請求項5】

前記粒子と、

多官能性イソシアネートと、

を反応させることによって、段階的な方法で2以上のポリマーシェルを形成させること

を特徴とする請求項 4 に記載の硬化剤。

【請求項 6】

エポキシ接着剤によって基板に固定された電子部品であって、

前記エポキシ接着剤は、

( a ) アミン、および

( b ) エポキシ樹脂、および

( c ) エラストマー - エポキシ付加物

の反応生成物からなる硬化剤を含むことを特徴とする電子部品。

【請求項 7】

接着剤フィルムに所定のパターンで分散した金粒子と、エポキシ接着剤からなる前記接着剤フィルムと、硬化剤からなる固定配列 A C F であって、

前記硬化剤は、アミン、エポキシ樹脂およびエラストマー - エポキシ付加物の反応生成物であることを特徴とする固定配列 A C F 。

【請求項 8】

前記組成物は、アリルグリシジルカーボネート部分からなる保護フェノール化合物からなる高ガラス転移点 1 液型成型コンパウンドとして利用可能なように構成されたことを特徴とする請求項 7 に記載の A C F 。

【請求項 9】

前記組成物は、シート成型材料 ( S M C ) 、バルク成型材料 ( B M C ) 、または生地成型材料 ( D M C ) として利用可能なように構成されたことを特徴とする請求項 8 に記載の A C F 。